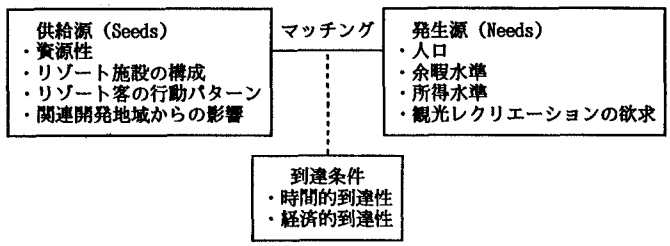
Ⅳ－201　ダム湖周辺におけるリゾート空間創出に関する研究

立命館大学理工学部　正　員　春名　攻
京都大学大学院　学生員○野崎　一郎
京都大学工学部　学生員　小川　直之

1．はじめに　ダムを山間部に建設した場合、下流部には治水安全度の確保・向上や水供給等々の利益をもたらすが、その反面、水没地域の発生に伴って農耕地・住宅地・道路等の生活基盤の水没や、過疎化が進むことが多い、等々の弊害をダム建設地域周辺にもたらす恐れがある。このような「ダム建設がもたらす下流部とダム建設地域周辺間の利益の不公平」を解消するため、ダム建設地域周辺の地域振興を図る必要がある。そこで本研究では、地域振興の一手段として、ダム湖の有効利用を図るためにも、ダム湖の持つ水と緑のオープンスペースを利用する事業に着目した。ところで近年、わが国においては、社会経済の発展に伴う社会生活の充実を目指した、リゾート活動基盤の整備が重要視されてきている。また、最近、親水空間として見直されている河川空間を利用した事業として、例えばスーパー堤防等の事業が提言されているが、まだまだ、大都市近郊の内陸部のウォーターフロントを利用した事業が少ないのが現状である。

そこで本研究では、以上に示したことを考慮し、新規のダム建設を円滑に進める上で問題となる地域からの反対論を解消するための一方策として、また同時に、地域にとって有益と考えられるダム湖周辺におけるリゾート空間創出の方法論の開発について研究することとした。そして具体的な検討対象として、猪名川流域において治水目的で整備計画が策定されている虫生地点の猪名川ダムを取り上げ、実証的にも考察することとした。

2．ダム湖周辺におけるリゾート行動に影響を与える要因とその関連構造の認識　ダム湖周辺のリゾート空間創出について分析するまでの基本認識として、まず、ダム湖周辺を訪れたリゾート客の行動が、どのような要因によって影響を受けるのか、またどのようなメカニズムでリゾート行動として実現化しているのか、等々を解明し、リゾート行動の発生構造の概略を把握する必要があると考えた。そこで、ダム湖周辺のリゾート行動に影響を与える要因及びその関連構造を、図－１のような単純構造を持つ模式図に表わした。この模式図は、発生源に居住しているリゾート行動を起こす個人の条件が、自分の欲求を満たしてくれそうな供給側の条件と適合し、かつ到達条件における時間的・経済的到達性という要因がその個人の容認範囲内にある場合に、リゾート行動が実現化するという認識を示したものである。



図－１　ダム湖周辺のリゾート行動に影響を及ぼす要因の模式図

3．ダム湖周辺のリゾート空間創出のための問題点・課題に関する考察　まず第一の問題点としては、類似した既存のダム湖のリゾート開発があまりないため、ノウハウが少なく、また、他の湖沼リゾートのノウハウもそのまま生かしにくいため、供給側からのアプローチは困難であると判断した。さらに、対象地域である猪名川ダムの近郊の都市において、どのような客がどのようなリゾート活動を、どの程度の規模望んでいるかを確実に把握できていない。そして、ダム湖周辺に来訪することを想定するリゾート客が、交通手段・時間的到達性・交通費用といった到達条件に対して、どのような条件ならば実際に来訪することが期待できるのか、さらには、どの程度の期間滞在することを考えているか、等々を判断できるような統計的資料やデータが存在しないのが現状である。

ところで、一般的に経営論では、ニーズに的確に対応したサービスの供給を行なうために、顧客の嗜好を

調査したり、様々な属性を持った顧客を絞り込んで効率の良い供給を行なうのが、マーケッテングリサーチの基本的な考え方の一部とされている。そこで、以上のような新規リゾート開発検討上の問題点を克服することを目的として、このようなマーケッチングリサーチの考え方を応用し、アンケート調査とその結果の分析を行なうこととした。

4．分析方法の提案とその実証的考察　まず、リゾート地としての性格を決めるキーコンセプトを設定する際に必要である情報を得るために、以下の調査項目を持つアンケート調査を行なった。

①個人特性(年齢，世帯収入，週休２日制，性別，結婚，職業)　②希望する到達条件(交通手段，到達時間，交通費用)　③希望する滞在型(短期，中期，長期)　④希望するリゾート活動(核となる活動，周辺となる活動)及び活動に対応した施設規模(大中小の３段階)

このアンケート調査を基礎的情報として、個人特性とリゾート活動への嗜好との関係を把握するため、数量化理論３類を用いて分析した。さらに、リゾート施設等のハード面及びリゾート地の質・水準等のソフト面の内容がどのようなものであれば、リゾート客がより魅力を感じ、訪ねたいと思うのかについて調査するため追加アンケートを行なった。そして、アンケート調査の結果を利用して、個人特性に関する項目として、年齢層を若者層(10～20代)、及びファミリー層(30～50代)の２個を対象とした。また、到達条件に関する項目として、都市近郊型、滞在型に関する項目として短期滞在型(日帰りOR１泊)と設定した。それから、この結果に追加アンケートの考察結果を加えた内容を持つ、２つのキーコンセプトを設定し、表－１にその内容を示した。

次に、設定したキーコンセプトから、個人特性とリゾート活動への嗜好に関する分析結果を利用して、まず核となる活動を決定し、それから核となる活動に付随した周辺となる活動を幾つか決定した。そして、決定したそれぞれの活動に対応した施設について、その施設の規模に関するアンケートの調査結果を利用して、定性的な規模への提言を行なった。そして、この結果を表－２，表－３に示した。

5．おわりに　本研究においては、新規のダム建設を円滑に進める上で問題となる地域からの反対論を可能な限り解消するための有効な手段であり、かつ、地元地域にとって有益な手段と考えられる「ダム湖周辺でのリゾート空間創出とリゾート開発事業化の問題」をとりあげ、計画論的な観点から考察を加えた。そして、この問題のための一つの分析方法を提案し、この方法を猪名川ダムに適用し、実証的考察を行ない、有効と思われる幾つかの成果を得た。今後は、大都市から遠く離れた地方においてもリゾート空間創出を想定すること等について検討を行ない、研究のより一層の発展・充実を図りたいと考えている。

表－１　設定したキーコンセプト

キーコンセプト１
①若者の感覚にマッチしたハイセンスなリゾート地 ②日帰りでエンジョイでき、宿泊もできる都市近郊型リゾート地 ③ダム湖周辺の自然美を生かしたリゾート地
キーコンセプト２
①ファミリーで楽しめるハイアメニティーなリゾート地 ②日帰りでエンジョイでき、宿泊もできる都市近郊型リゾート地 ③ダム湖周辺の自然美を生かしたリゾート地

表－２　ｷｰｺﾝｾﾌﾟﾄ１に対応した活動とその規模

核となる活動				
活動種類	規模			
	大規模３点	中規模２点	小規模１点	平均点
遊園地	11	1	0	2.92
テニス	8	4	0	2.50
周辺となる活動				
活動種類	規模			
	大規模３点	中規模２点	小規模１点	平均点
登山・ハイキング・散策	5	12	2	2.16
サイクリング	3	10	1	2.14
ゴルフ	6	12	1	2.27
食事	9	23	0	2.28
宿泊	11	12	1	2.42
フィールドアスレチックス	4	7	1	2.25

表－３　ｷｰｺﾝｾﾌﾟﾄ２に対応した活動とその規模

核となる活動				
活動種類	規模			
	大規模３点	中規模２点	小規模１点	平均点
ゴルフ	8	7	0	2.53
遊園地	4	1	0	2.80
周辺となる活動				
活動種類	規模			
	大規模３点	中規模２点	小規模１点	平均点
登山	3	20	3	2.00
宿泊	9	26	0	2.26
食事	8	20	2	2.20
サイクリング	5	10	0	2.33